

2021 年 12 月 15 日

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

第 22 号

すくらんぶる

最新情報

12.14	理事会
2022.1.25	理事会
2.18	代表者会
2.22	理事会
2・27	
後藤富和弁護士講演会	
3.8	祭典推進委員会
例会企画会議	
3.22	理事会



劇づくりワークショップ

子どもたちが話し合いをしながら劇をつくる
子どもたちひとりひとり、
違っているからおもしろい！

2021 年 11 月 23 日（火・祝）

10:00～12:00／13:00～15:00

たらみ図書館・海のホール（諫早市）

講師：北島尚志、佐藤律子（NPO 法人あそび環境 Museum アフタフ・バーバン）

参加者：小学 4 年生～高校生 11 名／研修の青年・大人 9 名

長引くコロナ禍で、子どもたちは当たり前だった日常が奪われ、友だちと遊べない、関わりの中での学習が出来ない等、不安やストレスの中で気持ちを自分の中に押さえこんでいることも多いと思います。今後子どもの心と身体に様々な影響や問題が現れてこないかと危惧されるところです。「劇づくりワークショップ」はこのような状況を変えるために、専門家の力を借りて遊び心を刺激し心を開放することや、その思いを表現することに取り組むことで、子ども自身がエンパワーされる機会をつくりたい。また、子どもに関わる大人が、子どもの小さな仕草や表情など日常の中で子どもの「声」をキャッチできる力をつけるため、ワークショップやレクチャーを通して体感しそのスキルを磨き、子どもの「声」を尊重し「響関者」となりうるための大人の研修の機会をつくりたいと昨年度に引き続き企画しました。

まずは参加者同士が心と体をほぐしてコミュニケーション。顔じゃんけん、両手じゃんけん、体じゃんけん。トランプを使って「赤か黒か～世界記録に挑戦！」。グータッチ、仲間集め（好きなかき氷の蜜、スポーツ）、何を食べているのでしょうか。次々と遊びながら心と身体をほぐし、段々と表現活動へ。ホワイトボードの後ろで演技しその足だけを見て何をしているかあてる。2人組になって「同じものみつけ」「2人でジェスチャー」。4人組になって「カードに書いてある言葉を言わせるゲーム」。6～7人の3チームに分かれて「何をしているところでしょう」。そして全員で表現し講師にあてさせる「ここはどこでしょう」は「天国」と「地獄」を創りだしました。次に大人チーム子どもチームに分かれて最後に言わせる「セリフ」から物語をつくる。子どもチームに「今すぐ決めなくていいよ」、大人チームには「さいこーです」のお題。子ども2チームは「進路相談」と「買い物」のシーン、大人チームは「野球の優勝&祝賀会」をみんなで相談しアイディアを出し合いながら表現しました。「どんぐりころころ」を指揮者が身体全体で表現することで、表情のある歌になったり、カードに書かれた形容詞を言葉や身体表現だけであてあったり、人間写真、共通点探しなど笑いが溢れるワークショップでした。

そしていよいよ最後は、ドラマ「距離」。5センチ／30センチ／2メートル／1キロと、心の距離を、いろんな配役の対比でシーンをつくって表現。動物同士の組み合わせでの距離や、男と女、親と子の距離など、「なるほど！」とおもわずうなるような出来栄ばかり。みんな本当に豊かな表現力でした。

最後には、迎えに来てくれた家族に発表。「見せたくない」と思うものは見せずに、見せたいものを見てもらい、一緒にあそび合う発表になりました。終わって書いてもらった感想文には、「たのしかった」の文字が大きく太く描かれていて、その高揚感が伝わってくるようでした。講師も、「みんなすごい！生活に戻ってその中で影響していく。ぜひ今後も続けていってほしい」と願いを伝えてくれました。



乳幼児親子への関わりを学ぶ大人のための表現ワークショップ

～あそびのなかにうまれる関わりってなんだろう～

講師：佐藤律子さん(あそび環境 Museum アフタフ・バーバン)

2021年10月11日(月)10:00～12:00 本野ふれあい会館(諫早市)



乳幼児親子と関わっているスタッフが自分たちの学びたいことを出し合い、実際の現場に活かしたいと乳幼児活動部会で企画し長崎、佐世保、諫早から19名が参加しました。講師のりっちゃんこと佐藤律子さんに事前に学びたいことを伝え、目の前で起きる事を即興的にあそんでみる！自分自身のあそび心を発揮する！身近な活動を振り返る！ということをお願いした学びの場になりました。

コロナ禍で大人も子どもも不安で心が萎えている今、まずは免疫力をあげる①陽をあびる②誰かと笑う③面白いにむかう④やりたいことをやる、の4つの大切さを確認してスタートしました。「あ」「そ」「び」の文字から始まる3つのワークショップ、生まれた場所、好きな飲み物などで並んだり、集まったりして「同じ」と「違う」の楽しさを実感。2チームに分かれての人間知恵の輪では、チームで考えながら動き、知恵の輪をとくことを体感しました。そして最後は、「びっくりおにごっこ！」。心が開放された19名だからこそオリジナルのあそびの完成。腕を輪にして逃げ回るコーヒークップの中に、おにごっこ砂糖とミルクを入れるという大人のおにごっこ「コーヒークップのブラック」。どんなおにごっこにしようかとアイディアを出し合った時の参加者は、まさに面白さに向かうワクワクドキドキの顔をしていました。

今回は大人のワークショップの前に、10月8日から10日まで壱岐子ども劇場、佐世保子ども劇場、ながさき子ども劇場がそれぞれ主催し、乳幼児親子のためのワークショップ「おもしろごころ」に取り組みました。お互いの顔が見えるように丸く座り、年齢ごとに乳幼児が今どんな時期なのかを講師のりっちゃんが伝えながら、参加している母親も安心してその場にいていいと思えることで少しずつ笑顔が増えていきました。大人の笑顔は子どもたちにも伝わって、たくさんの笑いとともにどの会場もハプニングも受け入れて楽しめる心地良い空間が出来ました。

そして、りっちゃんを交えたまとめの中で確認できたのは、0～2才の乳幼児とあそぶ時、子どもたちが何を面白がっているのかをキャッチし“みんないっしょ”ではなく大人が同じ方向を向いていれば“ばらばらでいっしょ”という共有感が生まれるということ。ひとり一人の乳幼児の目線や顔つきをよく見つめ、興味や動きを尊重して遮らず、その場の大人がそれを見守る、ゆったりとした気持ちでいれば安心の空間をつくることのできるのだと思いました。講師のりっちゃんの“違うってつながりを生むことなんだ”という言葉が心に響きました。自分も楽しい、相手も楽しい。そんな居心地のいい場は、その場にいる大人が“今日は何を大切にしようか”を共有していることが大事。そんな大人の関係をつなぎ、積み上げていくことが乳幼児スタッフの役割ではないかと感じたワークショップでした。



劇団風の子九州主催『文化庁 ARTS for the future!』事業／「フクシマ発」(劇団風の子東北)公演に協力

小学生から大人まで53名参加しました！

*2021年10月24日(日)開演 13:30 *西諫早公民館・講堂

10年前に起きた東日本大震災を経験された劇団風の子東北の澤田さんが、「福島の実状を伝えたい」という思いでつくった作品。県民ラジオのパーソナリティと、福島の実状を取材し続けている新聞記者の2役を、澤田さんが1人で演じる。「福島の人を助ける」ではなく、「福島の人と同じ目線で考えてほしい」と言われる澤田さんは、語りを中心のこの作品で10年経っても変わらない福島の実状を伝える。2,3年の耐用年数の仮設住宅に未だに住まざるを得ない人たち。月収8万円に対して仮設住宅の家賃が1万6千円。子どもの甲状腺がんの発症率の増加。1日に10数台のトラックで運ばれる汚染土。1年間の許容範囲を超える放射線量。故郷へ戻れない人たちなど。また、現在も各地で続く差別。報道でも徐々に福島の実状が風化されつつある今、過去の出来事になっている自分たちがいないか、突き付けられた作品だった。

澤田さんを囲んでのアフタートークでは、率直な質問や福島に住む親戚への思い、福島への修学旅行を中止せざるを得なかった高校の先生の思いなどが話された。澤田さんは、「福島を訪れてぜひ自分の目で確かめてほしい」と言われた。自分が、見て聞いて感じることで、ありのままのフクシマを知ること大切だと思った。

子ども劇場は生の舞台芸術に触れることで、子どもたちが感性豊かに育ってほしいという思い、そして、地域の中で子どもも大人も一緒に観ることで、顔見知りの関係を築き地域が繋がっていくことを目指して活動しています。

このコーナーは、子ども劇場の特徴でもある舞台芸術や文化との出会いについて、様々な角度から県内各地の子ども劇場の会員の皆さんに書いていただいています。今回は佐世保子ども劇場の山崎翠さんです。

♥私たち親子が佐世保子ども劇場にお世話になって10年が経とうとしています。入会のきっかけは、仕事でお世話になっていた方からのお勧めでした。「乳幼児はお得に観ることができるよ」という殺し文句だったような(笑)。

2歳の長男を連れ、初めての例会へ。作品は劇団なんじゃもんじゃの「きずだらけのリンゴ」でした。リンゴの形に1枚1枚切られたかわいいチケットを持って、緊張気味に行った記憶があります。私自身、それまで生の舞台鑑賞の経験は少なく、あまり想像ができないということと子どもの反応など予想もつかないということもあって緊張していました。いよいよ作品が始まり暗転すると、長男は大泣き…すぐに会場の外に出ました。あやしつっつ何度か会場に入りましたが、ほとんど内容はわかりませんでした。先輩会員さんからは「そのうち観ることができるようになるから」とフォローをしてもらいましたが、「なかなか難しいな」と少しがっかりした気持ちになったように思います。

その後鑑賞を重ねるごとに、コアのように私にしがみついていた長男が前を向き、膝から降りて観ることができ、4歳下の弟ができるころには他のお子さんたちと前の方で観るようになりました。先輩会員さんのおっしゃった通り、“そのうち”を迎えることができたことに安心しましたし、鑑賞という機会を通して成長を見ることができた事が嬉しかったです。しかし、その後小学校中学年頃から例会や自主活動への参加を渋るようになりました。参加すれば楽しく、感じることもたくさんあることがわかるので私は行かせたい！でも本人は行きたくない。私自身、もどかしさを感じながらも先輩会員さんへつぶやきも聞いてもらいつつ活動していました。そんな中迎えたコロナ禍でしばらく作品を観ることができませんでした。延期の末に久しぶりに取り組まれた例会がひとみ座の「はれときどきぶた」でした。長男はやはり行かないと言いましたが、説得(駆け引き?)して渋々弟と共に参加しました。いざ公演が始まると斜に構えたような様子から、どんどんと引き込まれているのが後ろから見ても良くわかりました。終演後には絵本とグッズを我先に買いに行き、帰りの車の中では「来てよかった。連れてきてくれてありがとう。」とまで言ってくれて、心底楽しんだことが伝わり、劇場の醍醐味だなと私自身も感動することができました。

劇場活動を通して、子どもは思い通りにはいかないという子育ての教訓のようなものと、感じる力を子どもはしっかり持っているという事を教えて頂きました。私も先輩会員として今、乳幼児のお子さんをお持ちの方に伝えることができればいいなと思っています。

(佐世保子ども劇場／ 山崎 翠)

コーディネイト事業のお知らせ

人形劇団夢知遊座「雨ふらんでケロ・たべたいなア〜」

- 1/31(月) 文教おもやい保育園
- 2/1(火) ありあけ保育園(島原市)
- 2/2(水) おさなご園(島原市)
- 2/3(木) 桜花保育園(島原市)
- 2/4(金) ふくた保育園(諫早市)
- 2/8(火) 稲佐保育園(長崎市)
- 2/9(水) 学童保育北小クラブ(諫早市)
- 2/10(木) 小野保育園(諫早市)
- 2/11日(金) わくわくDokiDokiの会(波佐見町)

長崎県の人々と
会えるのが楽しみだケロ



子ども劇場 舞台鑑賞情報

★参加方法などについては各地の子ども劇場事務局までお問い合わせください。

作品名	月日(曜)	開演時間	場所	主催
のーくんひとり人形劇場「雨ふらんでケロ」 (夢知遊座)	2月5日(土)	15:00	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場
	2月6日(日)	14:00	たらみ図書館海のホール	諫早子ども劇場
君がいるから (CAN 青芸)	2月13日(日)	18:30	メルカつきまちホール	ながさき子ども劇場 諫早子ども劇場
いのちの音ピアノ・コンサート (みずのえ)	2月20日(日)	15:00	アルカス SASEBO 第2リハーサル室	佐世保子ども劇場

**NPO 法人
長崎県子ども劇場連絡会**

〒850-0057

長崎市大黒町 4-26

北村第一ビル 302 号室

TEL: 095-825-0533

FAX: 095-825-6151

E-MAIL: n.kogeki@alto.ocn.ne.jp

県内子ども劇場

ながさき子ども劇場

TEL: 095-825-0533

佐世保子ども劇場

TEL: 0956-22-6747

諫早子ども劇場

TEL: 0957-23-5689

壱岐子ども劇場

TEL: 0920-44-5010

Web サイト

<http://www.nakogeki.sakura.ne.jp/>

発行

NPO 法人長崎県子ども劇場連絡会

校則ってなんだ？

～校則から子どもの権利を
考える～

講師: 後藤富和弁護士

プロフィール: 1968 年生まれ

弁護士、福岡大学非常勤講師、福岡県弁護士会 LGBT 委員・校則 PT 委員、九州弁護士会連合会人権擁護委員、日本若者協議会校則見直しガイドライン作成検討会議委員、福岡市立警固中学校 PTA 元会長

学校が息苦しい…学校が窮屈…

自分らしくられない…

校則って誰のため？

何のためにあるの？

2022年2月27日（日）

14:00～16:00

たらみ図書館海のホール(諫早市)

参加対象: 中学生以上

参加費 : 大人1000円

子ども(18 歳以下) 500 円

長崎県子ども劇場連絡会の

新しいリーフレットができました！

舞台公演のコーディネイト事業が広がりをみせています。幼稚園や保育園からの要望に応え、質の高い作品を紹介しています。今回のリーフレットには舞台公演のコーディネイト事業について特に詳しく載せました。長崎県のすべての子ども達に、舞台芸術との出会いを届けるためにもご活用ください。



第二十七回長崎県子ども舞台芸術祭典の
リーフレットも出来ました

団体概要

子どもの豊かな成長と地域の子どもの文化芸術振興に寄与することを目的に 2003 年に NPO 法人として活動を開始しました。長崎県内にある 4 つの子ども劇場や、子どもに関わる団体や個人の方とのつながりを大切にしながら、地域の文化活動を支援しています。長崎県子ども舞台芸術祭典や舞台公演のコーディネイト、講演会や学習会などの事業を行っています

子どもに夢を！たくましく豊かな創造性を！

私たちは子どもの文化を応援します。

★編集後記★

子ども劇場は 1966 年に福岡県に発足して全国に広がったが、ほとんどの子ども劇場は長い間 4 才からの会員制の会だった。観ることも 4 歳から保障する活動だった。子ども劇場首都圏で、乳児から幼児へという人生の夜明けのような時代、お母さんやお父さんのお膝の上から、外の世界に目を向けた時どのようなおしゃべりと出会ってほしいのか、どんな場であったらいいのか、そんな丁寧な話し合いがされ、3 つの劇団が 2、3 才児に向けてつくった「はじめてのおしゃべり」の作品が上演されたのが 2001 年。それからたくさんの乳幼児に向けた作品が生まれている。近年では赤ちゃんの感性の発達も研究され、0 歳児にも他者への理解や善や悪を感じる力が育っていることが証明されている。0 歳児から大人まで、あたたかく安心できる空間で、ファンタジーの世界にのめりこめる素晴らしい表現は、観客にも素の自分が出る反応を引き出してくれる。人にどう思われるかではなく自分自身の感じたままの反応。そしてその場にいる人たちに共感が生まれる。生き方や価値観に苦しんでいる思春期の子どもたちにとっては、違っていることが当たり前だということや、自分が感じていることを他者も感じていることを知ることもある。年齢にあった作品を、たくさん子どもたちに体験してほしいものである。しかし、文化にはお金がかかる。だが文化は人を育てる。長い目で見れば感性豊かな人間が増えることは、国にとっても費用対効果が高い。クーポン発行の事務費が 900 億円、アベノマスク保管料が 6 億円などのニュースを聞かされたとき、そのお金、子どもの文化にまわしてくれ～と叫ぶ私である。(N)

社会福祉法人 小野保育園

諫早市小野町 676-2
TEL0957-23-0120

**ダイハツチバナ
有限会社 林田車体工業**

〒854-0126 諫早市松里町 288
TEL 0957-23-5318 FAX 0957-24-1378

立石産婦人科医院

諫早市栄町 7-6
TEL0957-88-0292

白山陶器株式会社

白山陶器
〒859-3702 東彼杵郡波佐見町湯無田郷 1334
TEL 0956-85-3251 FAX 0956-85-6630

社会福祉法人 深海保育園

諫早市高来町船津 418-1
TEL0957-32-2132



古豊歯科医院

長崎市小峰町 3-16
☎ 095-843-4165



医療法人 マツオ内科クリニック

〒854-0072 諫早市永昌町 43-6
TEL 0957-25-2225
FAX 0957-25-2220